



▲常井議員は、大型コンバインで稲刈りを体験しました。農家、農業者の皆さんと、一緒に農政のあり方を考えていきます。(21年9月)

県立中央病院について、常井議員が質問 「なぜ、産科の再開を先延ばしするのか」

常井洋治議員は、県立中央病院の機能充実を政治的ライフワークとして、議員活動をしてまいりました。県議会は、県出資団体等調査特別委員会において、「茨城県病院事業会計」を精査団体に指定して、その改革方針等を審議しています。同議員は、その委員会の委員として活動しており、今回は、去る10月23日に開催された第7回委員会の審議の中から、質疑応答の一部(要旨)をお知らせします。

常井委員 今回提出された資料(P3参照)によると、産科の再開をいきなり23年度に延期してしまっているが、なぜなのか。我々は、古田病院事業管理者が、任期(21年度

末まで)の期間中にはきちんと再開してくれるものと信じて待っていた。

産科は病院の医業収入を増やすうえでも大事な。産科の再開がかなわない間は、十数人いる助産師で院内助産所をつくる体制がなぜできないのか不思議でならない。(管理者は、任期内の院内助産所の設置を明言していた。)そういう体制も含めて、医業収入も増やす工夫をすべきと思うがどうか。

2ページ下段へ続く↓



12/1(火)

常井洋治一般質問
傍聴のご案内

- ・12月1日(火) 午後3時30分から4時30分まで
- ・午後3時前に県議会議事堂に来て頂ければ、どなたでも傍聴できます。
- ・お誘い合わせのうえ、是非ともおいでください。(県議会事務局：029-301-5613)

一緒に創ろう! ふるさとの輝く新時代

平成21年第3回定例県議会を終えて

平成21年第3回定例県議会は、10月5日から26日までの22日間開かれました。補正予算や条例など43議案を可決しました。常井議員は文教治安委員会の委員長として活動しました。

平成21年度10月一般会計補正予算を可決

◎補正予算

583億63百万円

◎補正後

1兆1,712億35百万円

補正予算の主な内容

(1) 経済対策

①地域活性化・経済危機対策臨時交付金の活用

・事業規模 133億92百万円 (74事業)

※国交付金の本県配分額、85億47百万円

②中小企業融資資金貸付金の拡充

・融資枠：555→1,305億円 (+750億円)

③投資的経費の確保

・72億19百万円 (うち、公共事業 約24億円)

(2) 雇用創出

・県事業 9億44百万円(雇用創出予定1,086人)

・市町村補助 4億64百万円(〃 582人)

※平成21年度雇用創出人数3,960人←2,292人(+1,668人)

(3) 地元関係予算

県立中央病院が、ドクターヘリの基地病院を目指す。

- ・救急用ヘリポート整備 (病院会計) 1億10百万円。
- ・規模：高さ約10m、大きさ約20m×20m(地上嵩上式)
- ・整備予定：平成22年度工事完成、稼働
- ・場所：現在の職員駐車場。がんセンター東隣りに整備中の救急センター2階屋上とブリッジで接続し、ストレッチャーで受入患者を直接搬送する。

※ 県は、ドクターヘリの運航を22年7月から予定していますが、当面の基地病院は、水戸医療センターと水戸済生会総合病院となっています。県立中央病院は、原子力災害を含めた地域災害医療センターと県北・県央地域の救急センターの役割を果たすためにも、ヘリポートが必要とされてきました。また、同病院は、ドクターヘリの基地病院の候補とされており、病院スタッフの意欲もあります。



ヘリポートのイメージ写真
(帝京大学ちば総合医療センター)

前ページの続き

古田病院事業管理者 私は3年7カ月改革を進めながら、産科医の招へいに努めてきた。これまで、10以上の大学と病院関係者と会ってきたが、周辺の状況について聞かれた際に、約10km離れた水戸済生会総合病院と県立こども病院が連携して、総合周産期母子センター機能を果たしている実態を申し上げるが、それがネックになって、新生児病棟がないような中央病院に産科医を送る理由も、希望者もないと異口同音に返ってくる。今現在も永井病院長とともに努力をしているが、再開には至っていない。

常井委員 県立こども病院も中央病院もどちらも管理者の所管なのだから、トータルでうまく機能するよう前向きでやって頂きたい。小児科とか産科とか基本的部分がなけれ

ば、管理者が理想とする総合診療機能を持ち、同時に研究者たちがたくさん集まる教育的な病院にはなり得ない。県民にとっても、不完全な病院になってしまう。管理者には、産科の早期再開に向けて引き続き頑張って頂きたい。



県議会の県出資団体等調査特別委員会で質問に立つ常井議員。(21年10月)

国道355号石岡岩間バイパス、 22年3月に全線供用へ

国道355号石岡岩間バイパスは、旧岩間市街地の渋滞緩和や通学の安全確保を目的に平成元年度から事業を

実施しています。

延長7.9kmのうち未供用の2.8kmの区間については、常井議員が早期完成を強く要請していました。21年度の補正予算で必要な予算を確保したため、1年繰り上げて今年度内の供用を目指して、工事が進められています。

県出資団体等調査特別委員会（21年10月23日）の資料から（抜粋）

◎県立病院が今後めざす診療体制

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度～平成25年度
中央病院	総合的がん診療体制の充実強化 (化学療法センター) 小児科再開	二次・三次救急の充実 (救急センター開設) 循環器センターの充実 (心臓外科開設)	小児科本格的稼働 産科再開	産科本格稼働
友部病院	精神科救急体制の充実		新病院開院 医療観察法病棟開設	
こども病院	形成外科開設	脳神経外科本格稼働		

※この資料は、病院局の改革案であり、委員会で審議の対象になっているものです。

友部小通学路に信号機設置が決定

友部環状道路宿大沢線の開通を前に、子どもたちの安全を守るために、友部小学校通学路への信号機設置要望があった件で、9月30日に県公安委員会が設置を決定しました。

要望書は、本年5月に当時の大沢中1区長吉成貢様、大沢中2区長高村秋夫様、大沢中3区長中澤まさ様、幸町区長鈴木征夫様の4名連名で提出されておりました。

常井議員も一緒に行動してきましたが、各区長さんの熱意と関係機関のご理解に感謝しております。

当面は、LED式の手押し信号ですが、通常の信号に早く移行できるよう、常井議員も交差する市道の拡幅をお願いしています。



▲皆さんの熱意で信号機設置が決まった箇所。前方は友部小学校。(21年10月)

信号機のひとつ口メモ — 文教治安委員会の議論から

- ・県内の信号灯器数(20年度末)：68,691灯(3色一式で一灯)
うちLED(発光ダイオード)灯器：8,380灯
LED化率：12.2%(全国平均19.1%)
- ・今回補正予算で63箇所(958灯)LED化、事業費139,620千円。
- ・信号機1基の設置費：標準タイプ560万円、LED式590万円
※1基：交差点で自動車用8灯、歩行者用8灯
- ・1灯の単価：電球式7万円、LED10万円
- ・県内の信号機数、電気料金：21年3月末5,800基、年間電気料金は、約3億2,400万円(県予算)。
- ・LED式信号灯器のメリット
 - ①西日があたって、点灯しているように見える疑似点灯を防げる。
 - ②省エネ効果……電力消費は、電球式の約6分の1程度、CO₂削減効果が大きい。
 - ・県警によると、今回補正予算でLED化される63箇所分で、約52世帯1年分に相当するCO₂排出を削減できる計算になるそうです。
 - ③長寿命……電球式の青と赤は毎年交換、LEDは概ね6～8年。
- ※ 常井洋治議員は文教治安委員会委員長として、委員会で発議して、「信号機のLED化推進を求める意見書」を提案し、全会一致で決議して、国等へ提出しました。

政権交代で話題の県関連事業

(1) ハッ場ダム

- ①総事業費：約4,600億円
- ②工期：昭和42年度～平成27年度(予定)
- ③関係都県：茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、群馬県、栃木県(治水のみ)
- ④新規都市用水開発水量：22,209m³/秒
- ⑤本県では、同ダムが県南・県西地域約50万人分の水源となっている。また、利根川、小貝川の合流域の洪水対策として期待されている。
- ⑥本県負担額：20年度まで192億円。21年度以降76億円

を予定。

(2) 霞ヶ浦導水事業

- ①総事業費：約1,900億円
- ②工期：昭和59年度～平成27年度(予定)
- ③関係都県：茨城県、千葉県、東京都、埼玉県
- ④新規都市用水開発水量：9.2m³/秒
- ⑤霞ヶ浦の水質浄化と利根川、那珂川の渇水対策が目的。那珂川～霞ヶ浦の那珂導水路は、約43kmを計画、うち施工済は13.7km。
- ⑥本県負担額：20年度まで657億円。21年度以降194億円を予定。

写真で見るとこい洋治活動記録



悲願の全面改築実現に感慨無量で玉串奉奠。橋本知事と土井院長から模型で説明を受ける。(21年9月)

友部病院起工式で



岩間夏まつり(岩間囃子保存連合会主催)は、例年どおり大にぎわいだった。(21年8月)

現場で皆さんと



南山学童野球大会の開会式にて。(21年8月)



五平地区の小沢眼科付近へ道路照明灯、横断歩道の設置要望で調査。古谷区長さんと。(21年9月)



下市原地区で、沼淵前川のたい積土砂の除去要望に応える。(21年9月)

匠のまつり、いばらぎストーンフェスティバルにて。恒例の6mの巨石の石割式。(21年9月)



岩間中学校の改築竣工式にて(21年8月)



県警察学校で行われた殉職警察官慰霊祭で、58柱に対し弔辞を述べた。(21年10月)



ふるさと友部まつりで大人気の景品つきボールを投げる。(21年10月)



岩間武道館での合気道演武大会で、稽古の思い出話をする。(21年10月)



笠間市高齢者ベタंक大会(宇田卓司会長さん)で選手の皆さんと。(21年10月)



笠間市内3商工会の合併契約調印式にて。22年1月に、会員数が県内第2位の商工会として発足する。(21年9月)

南山内公民館の敬老会では、中学生姉妹の津軽三味線の演奏を楽しんだ。(21年10月)